



公益財団法人
日本セーリング連盟

JSAFレース委員会
(外洋小委員会)

外洋レース 大会の主催と組織



外洋レースを主催するために

外洋レースを主催しようとする場合、いくつかの情報を必要とし、整理しなければならない点があります。このスライドでは国際セーリング連盟 レースマネジメント小委員会発行資料を基にレースを主催するための情報を提供します。

外洋レースを主催するための4つの質問

何の大会ですか？

いつ、どのように開催されますか？

どこで開催されますか？

大会はどのように組織されますか？



•大会のステータス

- クラブレース(ハーバー・フリートレベル)
- 小規模なオープンレース(30艇以下)
- 大規模なオープンレース(30艇以上)
- 加盟団体のレース(年間レース等)
- 地方選手権(複数の団体・水域からの参加)
- 全日本レベルのレース(ジャパンカップ・全日本ミドルボート等)



- **主要な大会情報**

- 開催日数・日程

- クラス (IRC, ORC, OneDesign, OPEN)

- JSAF-OSR カテゴリー

- レース数 (全体のレース数・1日のレース数)

- レースタイプ (インショア・ディスタンス・オフショア)

- コースエリア・コース・距離

- 参加艇数の見込み (予算)



- **主要な大会情報**

- **開催日数・日程**

- **他の大会と重なっていませんか？**

- **文化的行事・周囲のイベントの影響はありませんか？**

- **開催時期の気象・海況は？**

- **台風・潮流・その他気象状況がレースに影響を及ぼす可能性があります。**



4つの質問③ どこで開催されますか？

- **本拠地となるマリーナ・ハーバー**
- 海面は港湾局などによる制限がありますか？
- その他の商業船・プレジャーボートの航行による大会への影響はありますか？
- 海底はアンカーリングに適していますか？
- 水深・潮流は複雑ではないですか？
- レースエリアには安定した風は吹きますか？
- 海面は安全ですか？



- **主催団体**
- **実行委員会**
- **レース委員会**
- **プロテスト委員会**
- **イクイップメントインスペクター
(計測委員会・安全委員会)**

これらすべての委員会はRRS.89.1、89.2、ERS C.4.6に基づき設定することができますか？



4つの質問のまとめ

①	何の大会ですか？	東海チャンピオンシップ (加盟団体レース)
②-1	開催日数・日程	2015 10/25 10/31 11/1
②-2	クラス (IRC, ORC・・・)	IRC ノーマル
②-3	JSAF-OSRカテゴリー	カテゴリー4
②-4	レース数 (最大・1日)	7レース (1日最大4レース)
②-5	レースタイプ	インショア6レース ディスタンス1レース
②-6	コースエリア・コース・距離	三河湾・上下・ディスタンス30NM
②-7	参加定数見込み	10艇
③	開催場所	ラグナマリーナ レース前後1週間係留無料
④-1	主催団体	JSAF外洋東海
④-2	実行委員会	委員長 坂谷定生
④-3	レース委員会	委員長 三浦信郎
④-4	プロテスト委員会	委員長 河内道夫
④-5	インスペクター	委員長 川合紀行



- **提案された大会の評価**
- 主催団体、組織はRRSに基づいていますか？
- 開催場所は大会の規模に対応していますか？
- 運営スタッフは一定のレベルをクリアしていますか？
- 安全カテゴリー・レーティングルールなど安全・公平性は確認されていますか？
- 危機管理マニュアル・組織図等 大会のレベルに合わせて用意されていますか？
- 運営スタッフが安全に働ける環境の大会ですか？



- 大会を主催するために特に重要な点

- レースを主催する上での重要事項

- 主催団体

- 大会前の重要事項

 - 競技役員・各委員長・委員の任命(レース、プロテスト、計測、安全)

 - レース本部・事務局(実行委員会)の設置

 - レース公示の作成

- 外洋レースを行う上での注意事項



レースを主催する上での重要事項

1. 競技者の安全確保

※セーリングは自然相手のスポーツ リスク管理に向けイメージーションを持つ事が重要

2. 競技者が公平に競技できるようにすること

※ 全ての選手が平等に勝てる機会のある、競技性の高いレースの提供が重要

※ 何よりも選手目線での判り易いレース運営が重要

3. 大会が競技規則 およびその他の関係する規則に準じて運営されること。(公正なレース運営)

※ 良い運営を行うには、体系立てた知識が必要

4. 全ての競技者が大会に規則に従えるようにすること。

※ はっきりしていて、あいまいでなく、分かり易い帆走指示書

5. 可能な限り、すべての競技者に満足感を与えること。

※ 何よりも選手目線での判り易いレース運営が重要



主催団体とは

- セーリング競技規則(RRS)を使用し、レースを運営する団体
 - 規則89.1に規定され、レースの運営を行える団体とは



RRSに記載されている主催団体	解説
a) ISAF(国際セーリング連盟)	
b) ISAF加盟の各国連盟	JSAF(日本セーリング連盟)
c) 加盟クラブ	県ヨット連盟・外洋加盟団体
d) クラブ以外の加盟団体	特別加盟団体・クラス協会

これら以外の団体単独ではRRSを用いてレースを行う事はできません。
外洋加盟団体・特別加盟団体等との共同開催ならば問題はありません。

レース公示 (Notice of Race) とは

- 競技者が大会に参加するか否か決定するために役立つ情報
- 帆走指示書が入手可能になる前に得られる必要な情報
- 規則である。(定義「規則」(e))

レース公示は主催団体により発行されなければならない。



帆走指示書 (Sailing Instruction)

帆走指示書とは**規則**である。(定義「規則」 (e))

帆走指示書はレース委員会により発行されなければならない。

規則90.2 帆走指示書

(a) レース委員会は、規則J2に従った帆走指示書を、書面により公表しなければならない。

帆走指示書に関しては 附則 L 帆走指示書ガイドを参照。



- ・**委員長**

 - 優れた組織力と運営の能力を持った人が要求される

- ・**レース・オフィサー**

 - 1人以上がいることが要求される。

- ・**デピュティ(副)・レース・オフィサー**

 - もし、レース・オフィサーが任務を果せない場合には、レース・オフィサーの任務を引き継ぐことができる

- ・**アシスタント・レース・オフィサー**

 - 通常、スタートラインのピンエンドのラインボートの責任者



各委員会の機能（レース委員会）

- ・ビジュアル・シグナル・オフィサー（視覚信号員）
 - すべての視覚信号の掲揚に責任を持つ
- ・ガンナー（号砲員）
 - 音響信号の安全な操作に責任を持つ
- ・タイムキーパー（計時員）
 - 正確に時間を告げることに責任を持つ
- ・レコーダー（記録員）
 - 起こったことの全てを、紙とバックアップでテープに記録する
- ・コース・セッター(ナビゲーター)（コース設定員）
 - 風の強さと方向に基づいて、ターゲット・タイムに適したコースの長さを算出する
- ・ピン・エンド艇の乗員
 - アシスタント・レース・オフィサー
- ・ビーチ・マスター
 - 艇の出艇と着艇の全てを管理する



・プロテスト委員会

- 主催団体またはレース委員会によって任命される

・プロテスト委員会、大会組織委員会、 レース委員会との連携

・プロテスト委員会の任務



- ・チーフ・メジャーラー
- ・クラス・ルール
- ・計測所
- ・計測装備

- ・セーフティー・オフィサー（安全委員）
- ・危機管理マニュアル
- ・JSAF 外洋特別規定

・「フロント・オフィス」は、競技者と直接接触する

- 大会概要の案内
- 参加登録
 - エントリー
 - 計測証書・保険・OSR申告書の受領
 - エントリーフィーの受領
 - 大会受付
- 帆走指示書の発行
- 公式掲示板、信号旗の通告
- 乗員登録の受付



- 「バック・オフィス」への立ち入りは、
関係者に限定されるべきである
 - レース委員会から送られてくるレース結果の処理
 - Jury事務局といっしょに抗議の審問の処理
 - メジャーからの計測結果の処理
- 「バック・オフィス」は、
 - 大会の通信センターの役割を務める
 - レース委員会とVHF無線により連絡をとる
 - その地方の救急隊と電話連絡をする

レース事務局は、以下の情報も提供する

・天気

- その地方の天気図を提供する
- 最新の天気予報を提供する

・レース・エリア

- 潮汐情報
- 波高
- 潮流



Part 1.

* クラス規則の変更での注意

1. IRC規則の変更
2. ORC規則の変更

Part 2.

* JSAF 外洋特別規定(安全)について

Part 3.

* その他の 注意事項

1. 順位・得点での注意
2. VHF 使用に関して
3. 複合スコアリングに関して
4. RRS 55. ごみの処分



Part 1.

* クラス規則の変更での注意

1. 大会公示 (Notice of Race)の記載

RRS規則 付則K. レース公示ガイド1. 5 参照

2. 帆走指示書 (Sailing Instruction)への公示での 変更箇所 の記載

RRS規則 付則L. 帆走指示書ガイド1. 6 参照



* IRCクラス規則の変更での注意

1. 大会公示 (Notice of Race)の記載

IRC規則 11. では 規則の変更は公示のみ有効です。

その他変更は IRCLレース主催者のためのガイド2014 参照

(資料 1.)

2. ワンデザインクラス規則の変更

X35協会では IRCレースでのクラス規則の変更が可能です。

「国際X-35ワンデザインクラス 日本国内規定」を明記する事でカバーされる。

「X35クラスワンデザインクラス 日本国内規定」 参照 (資料 2.)



* IRCクラス規則の 主な変更箇所

1. IRC規則22.4 Crew Number/Weight (クルーナンバー／重量)

証書記載のクルー人数 × 85kgのクルー重量を超えてはならない。
(2013年から規則が変更になった。)

2. IRC規則21.1.5 セールの制限

連続した日で行われるレガッタにおいては検討する価値がある。

3. IRC規則11.2 スピネーカーの搭載枚数の追加

適用規則、「日本セーリング連盟IRC規程」を公示に記載。

※上記適用は、ISAF スペシャルレギュレーションカテゴリー3 もしくはそれ以上で行われる場合のみ。



* IRCクラス規則の 主な注意箇所

1. IRC証書の有効性（証書年度）

日本での証書の有効期限は 12月31日までです。
JSAF年度と異なりますのでご注意ください。

2. 広告

レース公示で指定されない場合

IRCパートCが適用され 広告は許可されます。

3. RRS規則 52（人力）

IRC規則15.1で、RRS 52、人力、は完全に削除されています。

詳細は IRCLレース主催者の為のガイドを ご参照下さい。



* ORCクラス規則の変更での注意箇所

クルー体重

1. クルー体重制限を変更、解除する場合

レース公示にて明確に変更、新たに定める制限を記載しなければならない。変更、解除はレース主催者の意図と責任で行われ、クルー重量によって艇のパフォーマンスは変化することを理解した上で行うこと。

2. クルー体重制限を変更、解除が可能なレース

「シングルナンバー」でかつ「親睦」レースのみ

3. クルー体重制限を変更、解除する場合の注意

無制限な解除は 安全にかかわる事項であり主催者の安全配慮責任において変更され、最小限であるべきである。従って、何らかの制限を設けること。

ORCレースにおけるクルー重量に関する取扱いについて 参照(資料3.)



* ORCクラス規則の変更での注意箇所

セールの搭載枚数

レース中のセール搭載可能枚数は、GPH 値などに応じて制限されている。制限はレースの実施要綱もしくは帆走指示書によってレース独自の変更が可能。



Part 2.

* JSAF 外洋特別規定について

1. JSAF外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の成り立ち

JSAF外洋特別規定の概要

2. JSAF外洋特別規定の運用

3. レース主催者の注意事項

JSAF外洋特別規定2014－2015改正速報 (資料4.)

資料入手は <http://www.jsaf-anzen.jp/>



* 公示に関わる2014主な変更点

艇のスタビリティ(復原力)の証明義務

- ・ カテゴリー1～3は、スタビリティの証明が必要。
- ・ 証明方法は、ISO,CEマーク、デザイナーの宣言のいずれか。
- ・ 上記の証明が出来ないヨットは
 - a) ORCのStability Index, b) IRCのSSS Base, c) STIXとAVSのうち、レース主催者が指定したいずれかを提出しなければならない。
- ・ カテゴリー4は、レース主催者がスタビリティの証明を要求してもよい。

1. 外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の成り立ち

原文: ISAF が定めるOffshore Special Regulations が基本

国際セーリング連盟 (ISAF) が定めるOffshore Special Regulations の邦訳が JSAF 外洋特別規定である。但し、以下の2 点に当てはまる項目に関して日本独自の特記事項として変更している。

- a. 日本国内法に適合しない項目。
- b. 日本国内において極めて入手、対応困難な項目。

適用期間: 4月1日～翌々年3月31日まで。2年毎に改訂

ISAF-OSR は、1 月1 日～翌年12 月31 日までの2 年間が適用期間。

西暦偶数年に施行。JSAF 外洋特別規定は、ISAF-OSR の3 ヶ月遅れで運用。

採用カテゴリー: モノハル カテゴリー3、4、5、6のみ

ISAF-OSR は、モノハルとマルチハルの2 種、カテゴリー0～6 までの7 段階。

JSAF 外洋特別規定2012-2013 は、モノハル1 種、カテゴリー3～6 までの4 段階。



外洋レースを行う上での注意事項

1.JSAF外洋特別規定の基本

JSAF外洋特別規定の概要

目的:レースを行う際の、最低限の装備と訓練の規準である。

最低限の設備を共通化することにより、ある程度の安全を確保しつつレースを公平に行うためにある。(外洋特別規定1.01 参照)

責任:艇と乗員の安全確保の責任は各艇(艇の責任者)にある。

目的にあるように外洋特別規定は最低基準であって、安全を担保する物ではない。(外洋特別規定1.02 参照)

適合:規定に従っているかを確認する権利はレース主催者にある。

- ・レース参加するに当たり、規定に適合させる責任は各艇にある。
- ・参加艇が規定に従っているかどうかを確認する権利は、レース主催者にある。(外洋特別規定2.02 参照)
- ・確認方法には、申告書などを用いた申告やレース主催者による実艇検査などがある。
- ・JSAFは個々の艇に認可を与えたり、個々の艇の参加資格の合否を判断しない。



2.JSAF外洋特別規定の運用

1. 積極的かつ適切に採用する

- a). JSAF外洋特別規定の基礎はISAFが定めた国際的規定である。
- b). レースの公平性を保ちながらの事故防止、事故被害拡大の抑止、事故後の対応など参加者や主催者にとって便益性が高い。
- c). 採用時には第2章記載のレース条件に適したカテゴリーに注意。

2. レース毎の確認の実施

参加者への告知: レース公示に適用規則、適用カテゴリーを記載。

提出書類の準備: それぞれのレースに適した申告書(標準タイプ含む)を用意。

確認-1: 申告書を受け取り、内容を確認。

確認-2: 必要に応じて実艇のインスペクションを行う。

【point】 少なくとも申告書の提出による確認を行うことを推奨する。



3.レース主催者の注意事項-1

参加者への告知:レース公示への記載例

a). 規則の適用

→適用規則の項に「JSAF外洋特別規定2014-2015」

b).適用カテゴリーの記載

→参加資格の項などに「JSAF外洋特別規定カテゴリー3に規定を満たしていること。」

c).申告書の提出 →参加申込の項または提出書類の項などにカテゴリー3の場合:

「JSAF外洋特別規定カテゴリー3の申告書<標準タイプ>を提出。」

複数クラスで適用カテゴリーが異なる場合:

「参加資格を満たすJSAF外洋特別規定申告書<標準タイプ>を提出。」

申告書が標準タイプではなく当該レース専用を用いる場合:

「当該レースのJSAF外洋特別規定申告書を提出。」

【point】適用カテゴリーの項で「カテゴリー4以上」などの「～以上」という表現は行わない



3.レース主催者の注意事項-2

提出書類の準備:レースに適応した申告書の用意

標準タイプの申告書は適用カテゴリーの全項目を網羅していない。各レースにて特に確認しておくべき点などを抽出した申告書を用意することが望ましい。

確認-1: 申告書の内容を確認

参加者から提出された申告書の内容を確認。未記入や不備があれば事前に参加者に指摘し、適用カテゴリーに合致しているという有効な申告書を再提出してもらう必要がある。

【point】提出された書類は内容を確認するためにある！

申告書は受け取ることが目的ではない。参加者は提出すれば良いというわけではない。内容を確認し適用カテゴリーに合致しているかどうかを判断するためにある。

確認-2: インспекションの実施

可能な限り、実艇にてインспекションを実施する。



Part 3.

* 順位・得点での注意

1. RRS付則A

ハンディキャップ方式またはレーティング方式が採用される。公示、SI等で付則Aを変更しない場合はA3, A7に従って順位を決定する。

2. 修正時間(秒)が 同じ場合

RRS付則A7を変更しない場合を考えて置く必要がある。

3. 暫定成績の速やかな開示

- ・ハンディキャップ方式では 各艇の所要時間に修正係数を掛けて出た数値(修正時間)の大小により順位を決める。
- ・選手が自艇、他艇の所要時間、修正係数を掛け簡単に確認できる成績表が望ましく、また間違いを選手が発見できるような表示が望ましいと思われる。



* VHF使用に関して

1. JSAF外洋特別規定では

カテゴリ4以上ではハンディーVHFの搭載がある。
OSCを救う為の手段として有効に活用する。

2. VHF使用での注意事項

リコール等をVHFでコールする場合は、通信状況等で聞き取れないなど、艇からの救済の要求に対処する為の記載が必要。

帆走指示書の記載 例

“救済の要求の根拠とならない”の記述が必要。
(RRS 付則 L 11.6 参照)



* 複合スコアリングに関して

ヨットクラブでのレースではパーソナルパフォーマンスハンディキャップ (PHRF)とJSAF公認 (IRC、ORC)の証書を有している艇について、可能であれば必ず複合スコアリングを採用も考えてみることに。

このポリシーの基本的考えは、レース経験の浅いセーラーにレースに気軽に参加してもらい、より経験のあるセーラーと同じレースでその実力を比べる機会を得てもらおうと同時に、経験あるセーラーが離れていかないように、平行してJSAF公認クラスのレース結果を提供するというものである。

フリートをIRCクラス、ORCクラスとローカルクラスに分けるよりも、クラブはJSAF公認クラスとローカルハンディキャップの複合スコアリングを採用することが推奨される。

